

平成19(2007)年1月31日(水)

釧路湿原 自然の再生

Program

開催にあたって

釧路湿原では今、対話と協働を通じて、釧路川流域の河川環境の保全と、湿原の自然再生が進められています。

アジアにおける湿地保全について目を向けると、平成18年8月30日～9月1日に海洋・沿岸湿地国際ワークショップ(ベトナム・ナチャン市)が開催され、14ヶ国からその取組みが報告されています。今回はその開催報告と、韓国・洛東江河口およびインド・チリカ湖における自然再生の事例紹介を中心とした報告会を開催します。

世界の水辺環境の保全活動や、湿地再生事業の最新の動向を知り、日本の役割について考えます。それらを釧路湿原の自然再生に活かしていくため、多面的な視野から共に語り、共に考えます。

プログラム

- 開会挨拶(14:00) _____
辻井 達一 NPO法人 日本国際湿地保全連合 会長
- 報告(14:05～14:30) _____
『アジア湿地イニシアティブ～ラムサールCOP10(2008年・韓国)の成功をめざして』
中村 玲子 ラムサールセンター事務局長
『ベトナム・ワークショップに参加して』
三吉 憲一 (財)北海道河川防災研究センター
- 休憩(14:30～14:40) _____
- 海外事例紹介(14:40～16:40) _____
『韓国・洛東江(ナクドンガン)河口の湿地再生事業』
Dr.Chan-Woo Lee 韓国ラムサール湿地センター研究員
『湿地生態系の再生と人々の暮らしの回復～インド・チリカ湖に学ぶ』
Dr.Ajit K.Pattnaik インド・ナンダンカナン動物園長
- 意見交換(16:40～17:00) _____

プロフィール

辻井 達一(つじい たついち)
NPO法人
日本国際湿地保全連合 会長
北海道大学農学部附属植物園長、同大農学部教授、北星学園大学教授を経て、1997年から現在まで(財)北海道環境財団理事長。NPO法人日本国際湿地保全連合会長、釧路湿原自然再生協議会会長、北海道遺産構想推進協議会会長なども務めるなど多方面で活動を展開中。釧路湿原をはじめ自然環境の保全や再生に向けた提言を行う。

中村 玲子(なかむら れいこ)
ラムサールセンター
事務局長
出版社勤務を経て1988年4月からフリーライター。1990年ラムサールセンターの創設に関わり現在まで事務局長。ラムサール条約の普及と湿地のワイズユース(賢明な利用)実現のため日本とアジアで活動を展開中。2005年11月に開催された第9回ラムサール条約締約国会議において日本人で初めてラムサール湿地保全賞を受賞。

三吉 憲一(みやし けんいち)
(財)北海道河川防災
研究センター 技術員
2003年から現職。主に北海道の河川の整備計画策定に関わる業務を担当。海洋・沿岸湿地国際ワークショップで日本における治水と河川環境についての紹介や津波防災対策の事例等の紹介を行う。

Chan-Woo Lee
(チャン・ウー・リー)
韓国ラムサール湿地センター
研究員
水鳥と湿地に関する研究で釜山国立大学の大学院博士課程を卒業。

Dr.Ajit K.Pattnaik
(A・K・パトナイク)
インド・ナンダンカナン動物園長
元インド・チリカ湖開発公社代表。2002年ラムサール湿地保全賞を受賞。

主催 ラムサールセンター／NPO法人 日本国際湿地保全連合／(財)北海道河川防災研究センター

後援 北海道ラムサールネットワーク／日本経団連自然保護協議会／独立行政法人国際協力機構(JICA) 釧路国際ウェットランドセンター／国土交通省北海道開発局釧路開発建設部／環境省釧路自然環境事務所

アジアの湿地再生と日本の役割

海洋・沿岸湿地国際ワークショップの開催報告と海外における自然再生の事例紹介

世界の事例に学び、日本の湿地再生を考える

【お問い合わせ】(財)北海道河川防災研究センター「アジアの湿地再生と日本の役割」事務局

〒060-0807 札幌市北区北7条西4丁目5-1 伊藤110ビル TEL.011-729-8141 FAX.011-729-3380 ●ホームページ <http://www.bousai.or.jp>